

単純ヘルペス感染症

単純ヘルペスウイルス (HSV) はヘルペスウイルス科では最も人によく見られる代表的なウイルスです。HSV は 1 型、2 型のサブタイプに分類されます。1 型は主として顔、口唇、眼、皮膚部位に発病し、2 型は外陰部や尿道に病変を示します。1 型、2 型共に初感染の 90 % 以上は不顕性感染であり、ひき続いて潜伏感染を持続し、ときに回帰発症があります。再発の誘因は明らかでないものもあるが日光、発熱、全身衰弱などに引き続いて発症することが多く、日和見感染としても注目されています。初感染の時期は1型が小児期であるのに対し2型では思春期以後が多いです。

潜伏期

2～20日

感染経路

唾液、接触感染

主な分類

1、歯肉口内炎

1～3歳の乳幼児に見られる。潜伏期は2～7日、発熱(しばしば39℃台の高熱)が続く。顎下リンパ節の有痛性腫脹、咽頭後壁所見に続き少し遅れて頬粘膜、舌、口唇内面、口蓋粘膜、歯肉に発赤腫脹が生じ、次いで小水疱が出現する。やがてそれが破れてかさぶたをつくる。歯肉は強く発赤腫脹し出血しやすい。強い痛みのためによだれが著明で食物摂取が妨げられ脱水症状を見ることもある。7～14日で治癒する。起因ウイルスはほとんどが HSV - 1 型である。

2、カポジ水痘様発疹症(ヘルペス性湿疹)

0～5歳の乳幼児に多く見られる。好発部は、頭、顔面、頸部、上胸部、上肢などである。湿疹、またはアトピー性皮膚炎などに HSV が初感染して起こる。感冒様症状(発熱、食欲不振)、不機嫌で始まり無数の小水疱が出現し融合して母指頭大となる。皮膚病変に発赤が強くなり同時に紅暈を伴い中心臍か(疱臍)を有する小水疱があるのが特徴である。やがて膿疱、びらん、結かと推移する。2～3週で治癒する。予後は良好なことが多いが、3歳以下の乳幼児や免疫不全のあるものでは発熱などの全身症状が強く重篤に陥る。ほとんどは HSV - 1 型によるが2型のこともある。

3、口唇ヘルペス

口唇あるいはその周辺に軽い刺激感を伴う小紅斑や小丘疹が生じた後、小水疱を形成する。膿疱化を経て数日後に痂皮化し、1～2週で治癒する。しばしば再発を繰り返す。

a)、全身療法

1) 抗ウイルス製剤

①アシクロビル(商品名アシロベック)

内服の場合、1日4回服用

重症の場合は入院の上、1日3回点滴を施行

②ビタラビンAra-A(商品名アラセナーA)

2) 抗生物質

単純ヘルペスウイルスには無効であるが重症例やヘルペス性湿疹には二次感染防止または治療に使用することがある。

3) 輸液

新生児、乳幼児の初感染の重症例は脱水、ケトーシスを起こすことがあり、その場合点滴を行う。

4) 食事

患児の好みで、氷水、アイスクリーム、プリン、ヨーグルトなどの冷たいものやその他口腔へ刺激の少ない物が良い。(熱いものや、酸味のあるものはしみて食べにくい)

b)、局所療法

1) 歯肉口内炎: うがい(アズノールうがい液、イソジンガーグルなど)を反復する。疼痛に対してはキシロカインゼリー、キシロカイン軟膏を塗布する

2) 口唇病変: 5%アシクロビル軟膏(ゾビラックス軟膏)、3%Ara-A軟膏(アラセナーA軟膏)塗布

3) 皮膚病変: 5%アシクロビル軟膏(ゾビラックス軟膏)、3%Ara-A軟膏塗布。皮疹発生後48時間以内に開始しないと効果は期待できない。